

欠席委員からのご意見

○サムット委員

(全体)

全体として、札幌市が国際化の方に進むということを分かりやすく前面に打ち出すべきではないか。例えば、「外国人登録者数を2%に増やす」、など、分かりやすくインパクトのある数値などで示すべき。内容としては、留学生として札幌にきた人たちに、卒業後も札幌にいていただけるよう、歓迎するということからはじめて良い。多くの外国人がいるということは最も分かりやすい国際化である。まずは、掲げる、打ち出すことによって、話題になり、議論を呼ぶことが大事。市民の考えが呼び起こされ、どう変わっていくかというようなきっかけになることが必要。

市の施策でいえば、たくさんある「委員会」などで外国人が一人でも入るようにするなど、どの分野でも関わりはあり、参加を促進することが本当の国際化ではないか。

(ターゲット地域)

ターゲットによって、アピールする内容を変えていく必要があると思うが、札幌に関して言えば、アジアの中では冷涼な気候や新しい街であることなど、ヨーロッパのような雰囲気が独特であり、「一番近いヨーロッパ」というイメージが人気があると思う。一方で、アジア人の口にあう料理があったり、日本らしい「かわいい」ものがあることも魅力。

(国際人材育成について)

子どものときから異文化に触れるということは非常に大事。大人はおそらく8割が「外国人は怖い」と思っているのではないかという印象。ここでも、「小学校を卒業するまでに1回は外国人と話す」など、それが達成されることで、国際化が進んだと分かるような目標を定めると良いと思う。

○張委員

(基本方針)

基本方針2に関して、市民一人ひとりという表現はよい。個人的には基本方針2が最初に来るイメージがある。

(札幌ライフ—長期滞在)

長期滞在、二地域居住ということを考えたときに言葉の壁が問題になる。短期滞在などと違って、市民と接するとなると、英語や中国語、韓国語などの外国語を話せる市民がもっといた方がよい。例えば、二地域居住を促進するときに、札幌では言葉が通じると言えれば、外国人から候補地として選択してもらえと思う。当然、長期間かかるし、どこまで目指すかという問題はあるが、10年後を踏まえたとき、また長期滞在を目指す時に、そういう施策が入ってきてよいのではないか。せつかく、子どもの頃に外国と触れたり、外国語を学んだりするのであれば、大人になってからも外国語を学び続けようと思わせることが必要なのだと思う。

また、勉強というと敷居が高くなると思うので、外国語のラジオ放送をしてもらおうとか、普段から外国語を耳にする機会を増やすことも必要だと思う。そうしたことで、全体のレベルアップを図っていければいいと思う。